

## 平成19年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	介護職員レベルアップ(介護福祉士資格取得)のための教育プログラム実施		
法人名	学校法人 コア学園		
学校名	飯田ゆめみらいICTカレッジ		
代表者	理事長 榎原 英勝	担当者 連絡先	橋本勝行 TEL:0265-22-5111

### 1. 事業の概要

近年、全国では福祉に関する人材の需要が増加する一方となっている。特に南信州地域においては、その傾向が顕著であり、需要に対して供給における人材の不足が明らかとなっている。現在、南信州地域の福祉事業(特別養護老人ホーム、デイサービス、宅老所、居宅支援事業所、グループホーム等)において、介護業務に携わる介護職員のうちのほとんどがヘルパー2級もしくはそれ以上の資格を保有していることが採用される上での最低限の条件になっており、実際就労している職員もヘルパー2級資格保持者か、資格なしの経験者が多い。

しかし、同じような職務に携わるにもかかわらず、一定時間の研修を受ければ無試験で修了証と資格が与えられる『ホームヘルパー2級』と国家試験に合格しないと資格が与えられない『介護福祉士』ではその講習時間等の違いから現場に出てからのスキルの格差を問題視する声が出てきている。また、逆に国家資格である介護福祉士に比べ、高い能力を持ち合わせているヘルパーが肩書きだけで、給与面等で評価されにくい環境があるのも現状となっている。上記の側面から、介護職員のレベルアップを計り、資格による格差を是正しようと、厚生労働省が『いずれ介護職の基本就業条件を介護福祉士(ケアワーカー)に統一する』という考えを発表した。これに伴い、介護職に必要とされる資格がヘルパー2級から介護福祉士に変わっていくことは必須であり、すでにある福祉事業所では求人者の必要資格欄にヘルパー2級ではなく、介護福祉士と明記するところが増えている。

そこで、このような事態に対応すべく、南信州地域で先駆けて『介護職員のレベルアップ(介護福祉士資格取得)のための講座』を実施する。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

筆記試験結果(平成20年1月27日実施)として、

(a)実技試験免除者(介護技術講習修了者) 17名 結果待ち

(b)(a)以外の者(2月15日発表済み) 15名 全員合格(合格率100%)

という結果を得た。

レベルアップというテーマ目標に関しては十分達成できたものと判断しています。

3月末の最終発表でも好結果が出るものと期待しています。

## ②事業により得られた成果

科目(教科)	科目概要(単元)	時間
学科試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉概論</li> <li>・老人福祉論</li> <li>・障害者福祉論</li> <li>・リハビリテーション論</li> <li>・社会福祉援助技術</li> <li>・レクリエーション活動援助法</li> <li>・老人・障害者の心理</li> <li>・家政学概論</li> <li>・医学一般</li> <li>・精神保健</li> <li>・介護概論</li> <li>・介護技術</li> <li>・形態別介護技術</li> </ul>	26
模擬試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験(基礎編)</li> <li>・模擬試験(実力編)</li> <li>・模擬試験解説</li> </ul>	12
実技試験対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技試験対策講習</li> </ul>	8
計		46

## ③今後の活用

介護福祉士という資格に関しては、厚生労働省から変更点の発表があったばかりということもあり、その重要性について、まだまだ意識が低く、周知されていないのではという予測も若干あったが、受講申込みにこられたほとんどの方が介護福祉士改正法案の内容について知っており、また、以前より介護福祉士に対する意識を持っていたことに驚かされた。施設からの取得を促す指示も全般的にされているようで、今回の講座の開講を心待ちにされていたようであった。

文科省の事業ということで基本的に無料にて実施となったが、内容だけでなく、講師・スタッフの対応、送迎などの配慮にも評価をいただくことができた。今後、このような評価を積み重ねていき、ヘルパー2級の養成だけでなく、介護福祉士、ケアマネージャーの養成期間としての位置づけを確立させていきたい。

## ④次年度以降における課題・展開

アンケート結果を分析してみて、最も多かった意見が、『独りで学習することの難しさ』であった。自分独自の学習では、テキストを読み込み、重要単語を暗記するといった、単純なものになってしまうため、長続きしなかったり、実際の問題への対応ができないなど、実際に自分の身につく学習ができていなかった方がほとんどであった。今回の講座ではまず、重要ポイントを押さえ、実際に問題を解くことで応用力を身につけるといった、いわば“試験のテクニック”を学べたことに対し、ほとんどの方が驚きと感動を覚えていた。

今後への対応としては、他機関では、長時間を要して一から知識を学ぶといった体制の講座もあるが、本講座では来年も、まず、事前学習会を実施→学習の方法を伝授→対策講座受講→総仕上げといった流れでいくべきだと思われる。

また特に介護技術に関しては、自己流であったり、施設独自のやり方であったり、自分のやり方に自信を持っている方が案外少なかった。来年開講の講座では講座本体の受講生募集の前に、『介護技術フォローアップ講座』のようなものを開講し、今後の福祉・介護を取り巻く環境の変化や介護技術の確認をしてもらう機会を設け、自分自身のスキルアップ→若者の再チャレンジといった意識の掘り起こしのきっかけとし、より文科省事業の趣旨に合った内容にしていくとともに、情報交換の場を作っていく。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①ニーズ調査等

より確実な教育プログラム開発に向けて、課題・問題点等の的確な把握をねらいとし、飯田・下伊那地域の主だった介護施設および関連施設約50社、行政及び関係機関・団体などから、地域の介護の実態についての聞き取り調査(ヒアリング)を行なった。「介護福祉士」への関心度の高さ、当地(飯田・下伊那)での当該教育の必要性および期待の大きさを感じた。

#### ②カリキュラムの開発

##### ★テーマ

『介護職員レベルアップ(介護福祉士資格取得)のための教育プログラム実施』

##### ★開発経緯、対象、手法、開発内容

聞き取り調査の結果をもとに、担当講師、キャリアスタッフセンター職員を交えて、介護福祉士資格取得のためのカリキュラムを作成。

##### ○学科試験対策

社会福祉概論、老人福祉論、障害者福祉論、リハビリテーション論、社会福祉援助技術、レクリエーション活動援助法、老人・障害者の心理、家政学概論、医学一般、精神保健、介護概論、形態別介護技術等 試験科目に準じた内容で構成。

##### ○模擬試験

全4回(基礎編2日、実力編2日) 各2日で1セット。

※選考に漏れた受講者にも案内を送付し、希望者には受験をして頂いた。

##### ○実技試験対策

介護技術講習 4日間(学校法人三幸学園グループ委託 他)

実技試験対策講座 2日間(学校法人三幸学園グループ委託)

#### ③実証講座

『介護職員レベルアップ(介護福祉士資格取得)のための教育プログラム実施』

##### ★期間

平成19年9月10日～平成20年3月15日

##### ★受講者の属性

応募総数50名の申込みがあり、書類・面接選考で32名を選考。

##### ○受講生:32名(女26名・男6名)

20代・・・6名

30代・・・11名

40代・・・10名

50代・・・5名

##### ○出席率

100%・・・14名

90%以上・・・15名

90%未満・・・3名

※全体平均出席率 95.6%

##### ★受講者数

32名

##### ★場所

飯田ゆめみらいICTカレッジ

##### ★受講者の反応

約3ヶ月近くに及ぶ講座を通して、出席状況もよく、非常に充実した講座になったと思われる。

ほぼ全員の受講者が授業にも集中して取り組めており、何より介護福祉士の資格取得に対する並々ならぬ熱意が感じられた。

#### ④その他

実施委員の皆さんからの強い要望もあり、定員20名のところ32名まで拡大。さらに選考にもれた方にも可能なかぎり、模擬試験等受験できるように配慮しました。また本試験受験に際しては、講義内容のみならず担当していただいた講師(富田先生)の精神的サポートも好結果につながったものと確信しています。